

洪水ハザード情報について

以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

1

氾濫の種類

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、集落内の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

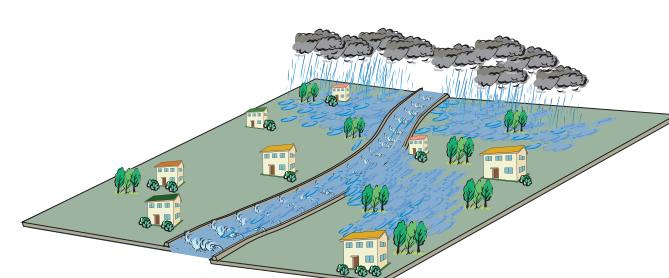
内水氾濫

その場所に降った雨水や、周囲から流れ込んできた水がはけきれずに溜まつておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すので、最大の注意が必要。



2

洪水情報

洪水注意報(気象庁)

●大雨、長雨などにより河川が増水し、災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。

洪水警報(気象庁)

●大雨、長雨などにより河川が増水し、重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表します。

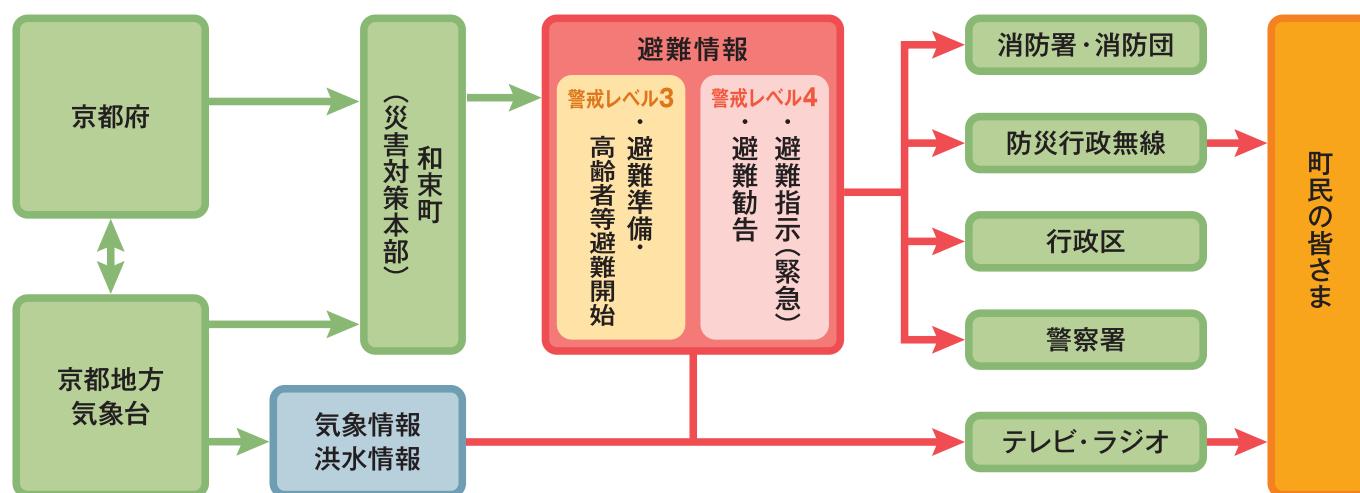
洪水危険箇所

●この「防災マップ」に掲載している「ハザード情報」は和束町に関係する河川(和束川、木津川)が大雨によって氾濫した場合、洪水が想定される区域とその浸水の深さを示したものです。
●雨の降り方によっては、想定とは異なる浸水深となったり、地図上に表示された浸水区域以外でも浸水することがあります。
●川が氾濫しない場合でも、低い土地などは浸水被害(床上・床下浸水など)が起こる場合があります。十分注意しましょう。

3

洪水情報伝達ルート

●気象の異常に対して、下図の伝達ルートで皆さんへお知らせします。



情報がなくても、異常気象(雷雨や異常な降雨)を感じたときには、避難の準備が必要です。危険を感じたときには、速やかに避難しましょう。

地震対策 地震発生! そんなときどうする

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1~2分

3分

5分

10分
数時間
3日

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保 (手近な座布団などで頭を保護)
- すばやく火の確認 ガスの元栓、コンセント
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する



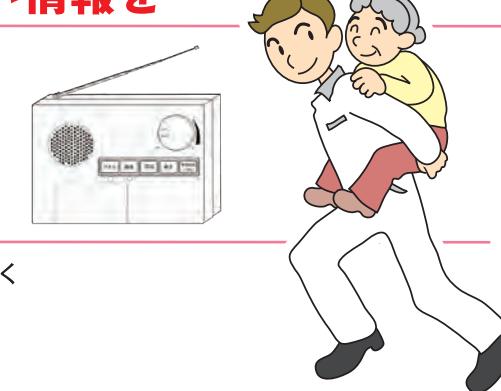
揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根・ブロック塀・自動販売機等に注意



みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- | | |
|----------------|---|
| 隣近所に
声をかけよう | ●災害弱者の安全確保 隣近所で助け合う |
| 出火防止
初期消火 | ●行方不明者はいないか ●ケガ人はいないか |
| | ●初期消火 ●消火器を使う ●バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく |
| | ●漏電・ガス漏れに注意 電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める ●余震に注意 |



テレビ・ラジオ・防災行政無線などで正しい情報を

- 大声で知らせる ●救出・救護を ●デマにまどわされないように
- 避難時に車は極力使用しない ●電話は緊急連絡を優先する

協力して消防活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集 ●無理はやめよう
- 助け合いの心が大切 ●壊れた家に入らない

屋内にいた場合

家中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など災害弱者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

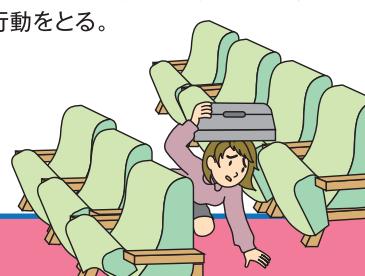


スーパー・デパート

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

劇場・ホール

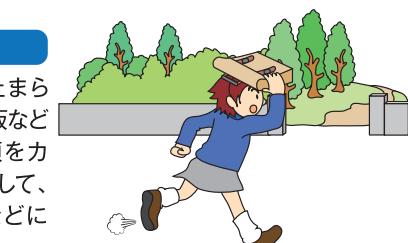
- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてずに冷静な行動をとる。



屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- プロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

海岸附近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

バス・電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ちていた行動をとる。

